opusdei.org

属人区長の手紙 (2016年4月)

「傷つける人を赦す、人間のなし得る最も貴いことの一つです。」4月の手紙で属人区長はこのように記し、手紙の大部分で赦しについて語る。

2016/04/11

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように!

聖週間の間、人間に対する神の愛に 幾度も感動しました。聖ヨハネが書 いています。「神は、その独り子を お与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」 [i]。

この有り余るほどの愛といつくしみ を聖三位一体にどれほど感謝しなけ ればならないことでしょう。「キリ ストは、わたしたちがまだ弱かった ころ、定められた時に、不信心な者 のために死んでくださった | [ii] こ とを考えれば尚更のことです。神 は、主のご受難とご死去によって、 人間との自由な約束を完全に果たさ れます。「神はまず世界の創造にお いて約束されました。私たちが度々 神に背いてそれを無視することが あったにもかかわらず、主は約束を 守り続けます。ところで、その約束 の最たるものは、私たちにイエスを 与えることでした。これこそ主なら

ではの偉大な約束です。確かにイエスこそは、神が私たちに与えられた約束の究極の実現なのです」[iii]。

救いの歴史の中で繰り返し更新され るこの約束によって、神の御子は、 私たちの間で生活し働きながら、罪 のゆるしを与えることに限界を設け ることはありません。ご自分の行い の最も小さなものでも私たちを贖っ て尚余りあるほどの価値があるにも 関わらず、です。また、ご自分の祈 りを御父が聞き入れてくださること を熟知しておられましたが、飽くこ となく私たちのために執り成してく ださいます。そして、極みまで達す る決心をなさいました。「友のため に自分の命を捨てること、これ以上 に大きな愛はない」[iv] からです。

十字架上の苦しみの最中での贖い主 イエス・キリストのみことばには心 打たれます。まずこう仰せになりま した。「父よ、彼らをお赦しくださ

い。自分が何をしているのか知らな いのです | [v]。しのばれた辱めや痛 み、十字架に磔にした人々の残忍さ ではなく、神への背きをお思いにな ります。このいつくしみ深いみこと ばで私たちの罪のゆるしが実現され ました。続いて、善い盗賊に向かい 同じようになさいます。あの人の誠 実な痛悔を嘉し、「はっきり言って おくが、あなたは今日わたしと一緒 に楽園にいる | [vi]と、罪の赦しと 永遠の命を約束されます。十字架像 に接吻する創立者の姿は深い信心の こもったものでした。その姿を目に した人々にとっては、回心の機会と なり、またキリストとその模範につ いて話すよう促されるのでした。

聖ホセマリアは、主のこの教えを心の底から自分のものにし、模範と言葉で伝え広めました。「赦す。ひとかけらの恨みも残さず真心から赦すこと。これこそ、常に多くの実を結ぶ立派な態度である。

これが十字架に釘付けにされたときのイエスの態度であった。『父が『会しているのか知らないのである」である」「vii」。私たてのおかげである」「vii」。私たである」「vii」。私たである」をもなんとが寛大なしたなが寛大なしたなが寛大なしたなが寛大なとができる人々をしましていたもができるようにより。と神にお願いしましょう。

傷つける人を赦す、人間のなし得る 最も貴いことの一つです。もちろん このことはいつくしみのわざに留ま らず、主が主の祈りでお教えになっ たように、私たちの罪を赦してもら うための条件でもあり祈りです。 「わたしたちの負い目を赦してくだ さい、わたしたちも自分に負い目の

現代社会の大きな欠陥の一つは、赦 す気配があまり感じられないことで

ある人を赦しましたように | [viii]。

す。人々の間で、国家間で、過去に被害を被ったことを何度も思いようし、汚物に満ちた水たまりのよばかけるの思い出の中でなじり合うがないの教えは、です。主の次の教えは、さらないます。「憐れみ深い人から」「ix」。

えれば、イエス・キリストと共にすべての人のために自己を犠牲にすることなのです。キリストと同じ心で愛するなら、実際に仕えることができるはずであり、真理を愛をもって守ることができるでしょう」[x]。

しかしながらこのように、キリスト と同じ心で愛するには、聖ホセマリ アが繰り返していた次のような事柄 が不可欠です。「心中のキリストの 存在を妨げるもの、すなわち、安易 な生活への執着、利己主義への誘 惑、自己顕示の傾向などを全て取り 除き、毅然たる態度を維持せねばな りません。私たちの中にキリストの 牛命を再現したときはじめて、人々 にもキリストの生命を伝えることが できるからです。麦の粒の如く死を 経験してのみ、この世の只中で働 き、世界を内部から変え、実り豊か にすることができるのです | [xi]。

いつもこのようでなければなりません。2、3回のゆるしでは足りないからです。ペトロの質問に対する主のお答えを思い起こしましょう。

「『主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか』。イエスは言われた。『あなたに言っておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい』。」[xii]。これは、常に赦

しなさいと言うことです。続いて主は、私たちがこの教えを心に刻み人はるようにと、莫大な負債を立てもらった僕が、わず喩えとです。統いてもらった僕が、わが喩えが、おけばないだ喩えいた[xiii]。このいました[xiii]。このいましたでなくでなった。でなった。と身に付けるようの真の弟子に要求されるようのもしょう。

決められることがない」[xiv] を使って説明しておられます。

「わたしたちにいわれていることは まず、裁かないことと、罪に定めな いということです。神の裁きを受け たくなければ、だれも兄弟をさばく 者になってはなりません。事実、人 間は表面的なところにとどまって人 を裁きますが、御父は心をご覧にな るのです。妬みや嫉みの気持ちから 生まれることばは、本当にひどいも のです。本人がいないところで兄弟 の悪口をいうことは、兄弟の名誉を 傷つけることであり、評判を落と し、うわさ話の餌食にすることにな ります。裁いたり、罪に定めたりし ないということが意味するのは、ど んな人にもあるよいところを積極的 に受け入れること、そして一面的な 判断や何でも知っているのだという 思い上がりによって、その人を苦し めるのをゆるさないことです。です がこれだけでは、いつくしみについ

ての説明としては不十分です。イエスは、ゆるすことと与えることもしたちに求めています。わたしたちは神からすでにゆるしを受けれてするしから、神が惜しみなく寛大にくだい、との付きのたことを知っているのなさい、(xv]。

た。「しかし、同時に私の最も善い ものをあなたたちに手渡したと憚り なく言うことができます。主なる がお与えになったものを、忠実に伝 えようと細心の注意を払って努めに そうできなかった時には、すくたも 分の過ちを認め、神と周りのとあり しました」[xvi]。

20日は、オプス・デイの属人区長と して教会に仕える新たな年を始める 日です。23日には、皆さんの兄弟で あるたくさんの助祭たちに司祭叙階 の秘跡を授けます。彼らと私のた め、教会の全司祭のために祈ってく ださい。主がいつもいつくしみ深く 私たちを見守り続けてくださるよう に、心一つに祈りと犠牲を捧げ、 consummati in unum [xvii]、完全な 一致を保って生きることです。教皇 様とそのすべてのご意向のためのお 祈りを片時も忘れることなく歩みを 続けましょう。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2016年4月1日

[i] ヨハネ 3,16-17。

[ii] □ − マ 5,6。

[iii] 教皇フランシスコ、2016年2月 20日一般謁見での講話。

[iv] ヨハネ 15,13。

[v] ルカ23,34。

[vi] 同上 43。

[vii] 聖ホセマリア、『拓』805番。

[viii] マタイ 6,12。

[ix] マタイ 5,7。

<u>[x]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』158 番。

[xi] 同上。

[xii] マタイ18,21-22。

[xiii] マタイ18,23-35参照。

[xiv] ルカ 6,37。

[xv] 教皇フランシスコ、2015年4月 11日大勅書『いつくしみのみ顔』14 番。

[xvi] 聖ホセマリア、1959年3月29日 説教のメモ。

[xvii] ヨハネ 17,23。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchouno-tegami-2016-4/(2025/12/16)